

葦原中だより

学校だより

11月号

在籍生徒数

11月1日現在

1年 81名

2年 104名

3年 100名

にじいろ学級

7名

学校所在地

〒356-0001

ふじみ野市川崎

310番地

★合唱コンクール

10月25日(土)本年度合唱コンクールが開催されました。多くの保護者・地域の皆様にもお越しいただきました。当日は各学級とも美しいハーモニーを奏でました。特に3年生の全体合唱は圧巻な歌声で聴く人の心を打ちました。

(1年) 最優秀賞(3組)

(2年) 最優秀賞(1組)

(3年) 最優秀賞(1組)

★躍動する葦中生(敬称略)

○新人戦県大会(陸上)

(走幅跳・女子) (9位)

○市民スポーツ大会(ソフトテニス)

(優勝)(中2女子部)

(2位)(中2男子部)

○税についての作文

(県税務連絡協議会長賞)

(県納税貯蓄組合総連合会優秀賞)

(川越税務署管内納税貯蓄組合連合会長賞)

(ふじみ野市教育長賞)

(7人入選)

○市科学教育振興展

(金賞) 自然科学部モーター班

(銀賞) 自然科学部生物班

(銀賞) 自然科学部水班

○県科学教育振興展地区展

(銅賞) 自然科学部モーター班

○入間地区児童生徒発明創意くふう展(優良賞)

振り返る力

校長 山崎 祐一

熊による被害が多発しています。今年は住民が命を落とす痛ましい事故が過去最多であると報道されています。熊が町中を移動した姿や畏れなかった姿が連日報道され、更なる人的被害を防ぐため地元自治体や猟友会は住民の安全確保や熊の駆除等到大変苦慮しています。驚く事に駆除した事が伝わりると多くの批判や抗議が自治体に殺到するそうです。命の大切さや動物愛護の観点から駆除はもつての外との批判が多いと聞いています。熊はとも賢く一度覚えた餌場は決して忘れない習性があります。地元住民たちは、熊の習性を知らない批判や抗議に大変困惑し、自治体職員も日々電話やメール対応に忙殺されて日常業務が滞る事態も招いています。「命はこの世で一番大切」「動物愛護は絶対必要」・・・この考えは確かに正しいのですが、関係性の中で物事を捉える視点が欠けると自分の言動が相手にどう映るのかが見えなくなります。そして相手の立場を察するゆとりがなくなり、自分の言動を振り返る事もなくなります。

一時期、マンション内で「赤ちゃんや幼子の声がうるさい」「公園での子どもの遊ぶ声がうるさい」と住民同士のトラブルや公園を廃止するという事案がありました。こうした幼子の鳴き声や子どもたちの騒音問題は、その多くが大抵問題にならないレベルだそう。しかし苦情を訴える人は自分の感情に任せて抗議し、自分の姿が相手にどう映るかまで想像が及びません。幼子をもつ親御さんや子どもたちがどんな気持ちで聞いているかわかりません。この世は皆が助け合い支え合って成り立つ当たり前の視点が欠けています。振り返れば幼少期に同じ様に公園で大きな声で遊ぶ自分がいた事や幼子はいつでもどこでも泣くものという当たり前の事さえ考えが及ばなくなっています。

人が幸せになる力は『自分を振り返る力』だと思っています。今の世はうまく事が進まないと他者にその責任を求める風潮が強いです。「政治が悪」「経済政策が悪い」「あの人の態度がおかしい」・・・時には親や兄弟や夫婦同士でも責任の押し付け合いが始まります。家族同士の感情がこじれて何日も親子や夫婦間で会話もない日が続くという事例もよく耳にします。欲求やこだわりが強すぎると見え

ないものを感じる心が削がれていきます。自分は家族にどれだけ守られ支えられているか、どれだけ家族のおかげで今の自分があるか・・・こんな感謝の心が浮かべば、家族の気になる言動も広く大きな心で受け止め、怒りも半減するはずです。相手を批判する事は簡単ですが、その前に自分は批判するに値するだけの言動をしているか、批判が自分のストレスのはけ口になっていないか、正しい批判であるほど相手の心を深く傷つけている事をわかっているか・・・他人を批判する前にまず自分自身の心の立ち位置を確認する事が先決だと思っています。そうした心の確立こそが熊の駆除や幼子が泣く声へ抗議したい心の高ぶりを抑える特効薬になると信じています。

穏やかな日々を送る人の多くは、自分の特性や性格を冷静に見つめる目を持つています。自分は神経質なのか短気なのか・・・なかなか自分自身の特性を知る事は難しいですが、そんな時家族や親族を見つめる事をお勧めします。不思議とその家系には連綿と続く実体の共通性があります。短気な方には短気な親が、神経質な方には神経質な兄弟が・・・良い実体は伸ばし、悪しき実体は一步でも改善する・・・自分を振り返る力は自らの実体を修正し穏やかな人生を歩む賢い生き方へのパスポートと捉えています。

★学校指導訪問

10月23日、本校にて学校指導訪問が行われました。2年に1回行われる学校指導訪問は、全教員が授業を公開して県や市の先生方にご指導いただくものです。日頃の生徒たちの生き生きとした姿も見ていただきました。

★中間試験

10月7日、2学期中間試験が行われました。夏休みや2学期の学習の成果を発揮する場の一つとして、誰もが真剣に臨んでいました。教科書やノートや問題集に目を凝らす多くの生徒の姿がとても印象的でした。

★生徒会本部役員選挙

10月16日の立ち合い演説会及び投票を経て、第56期生徒会本部役員が決定しました。立会演説会では立候補者・応援演説者全員が葦原中をもっとよくしていきたいという熱い思いが溢れていました。56期の生徒会本部役員の皆さんに期待しています。

★ボランティア除草

10月6・10・16・21日の4回、PTA・地域の皆様による除草活動が行われました。校地内は大変きれいになり、最適な学習環境が生まれました。ありがとうございました。

★地域交流

10月19日、環境フェアで吹奏楽部は素敵な演奏、自然科学部は研究成果を披露しました。また市民文化祭には美術部や授業での作品を出品しました。更にふじみ野市スポーツフェスタでは8名の葦中生が補助員として進行を支えてくれました。

★駅伝競走大会

10月27日、市内駅伝競走大会が開催されました。選手たちは、持てる力を十分発揮して男子A6位・B10位、女子A3位・B9位という見事な成果で、女子4区で区間賞でした。

★生徒会本部役員任命式

10月21日、本校体育館にて第56期生徒会本部役員任命式が行われました。55期生徒会本部役員にはそれぞれ感謝状が贈られました。

★スポーツフェスタ実行委員会

10月6日、11月開催予定のあしはらスポーツフェスタ実行委員会が視聴覚室で開催されました。健全育成会の会長様を中心となり、地域や各団体の皆様が一堂に会しました。

★道徳研究発表

10月29日、県道徳教育研究会の委嘱を受けた3・2の道徳授業が体育館で行われました。保護者や地域の皆様も授業に参加していただき、県内からも多数の参観者が来校しました。

※つれづれなるままに・・・

日本古来の芸道や武道の修行程には、「守(しゅ)・破(は)・離(り)」という言葉があります。「師の教えを忠実に守る段階(守)」→「自分で考え工夫する段階(破)」→「新しい世界を確立する段階(離)」と先人たちはその道を究める道筋を今日まで伝えてきました。

この守・破・離の考え方は教育の分野でも生かせると思っています。例えば学力向上にはやる気や自主性が不可欠ですが、まずは宿題等の一定の強制力(守)は必要だと思えます。誰もが学習意欲や計画的な学習習慣ができているとは限らないからです。最初は嫌々でも「わかった・できた」という喜びを感じて初めてやる気や自主性が生まれるからです。また校則や決まり等もよりよく生きていく上で極めて重要だと捉えています。決められた条件の中でも個性や自主性の伸長はできるからです。

近年、夏休みの宿題や校則や定期試験を廃止する学校が注目を浴びています。しかし義務教育の段階は分け隔てなく全ての子どもたちによりよい生活習慣や学力を育む事が求められています。「多様性」「自主性」「個性」という言葉が世の中に広まる中、改めて問われているのは多様性や自主性や個性を支える「守」の大切さだと痛感しています。

★11月の学校等の予定

4日(火)	Ⅱ期時間割開始・短縮⑤
	あいさつ運動①
5日(水)	あいさつ運動②
	校外学習(1年・川越)
	給食試食会・PTA運営委員会
	3年三者面談①
6日(木)	3年三者面談②・3年短縮
7日(金)	3年三者面談③・3年短縮
8日(土)	あしはらスポーツフェスタ
9日(日)	市総合防災訓練
10日(月)	3年三者面談④・3年短縮
11日(火)	3年三者面談⑤・3年短縮
14日(金)	県民の日(学校閉庁日)
17日(月)	スクールカウンセラー来校
18日(火)	部活動停止期間開始
20日(木)	市内中学校音楽会
21日(金)	修学旅行保護者説明会
	短縮⑤
25日(火)	期末試験①
26日(水)	期末試験②
27日(木)	専門委員会・短縮⑤
29日(土)	スマイルーム(14・30)
	(会場：霞ヶ丘UR集会所)

※切り絵リニューアル

校長室の壁にある切り絵が10月17日より新しくなりました。制作者の田幡様が「散歩道」という題で小川町の風景を表現された作品です。

※リヤカー補修

前本校校務員の方がリヤカーの修繕及び防草シートを設置して下さいました。有難うございました。